



第37号
令和7年1月1日
発行 聖マリアの園
〒853-0052
五島市松山町706-3
(0959)72-6129

特別養護老人ホーム聖マリアの園 施設長 村上順子

新年、明けましておめでとございます。

昨年の十二月当初より冬の寒さが急激に押し寄せて秋の気持よい気候が少なく、すぐに冬支度に追われた日々でした。季節の変わり目が無いまま年越しを迎え、身が適応できないようで、体の不調を訴える方々が多いようです。又、今回はコロナ感染が激変しているもののそれに代わる風邪症状で、肺炎等が多くみられるようです。しっかりと風邪対策をしながら元気に一日一日を過ごせることを願っています。ところで、昨年は世界情勢に目をやると、戦火の中であえぐ人々がたくさんいました。なんの罪もない人々が自国を追われ、理不尽な生活に喘いでいる人々、政権が交代し一喜一憂している人々、その中において、大きなうねりと共に、天地に心を寄せていきたいものです。また、5類になったとはいえ、インフルエンザが流行している現在、気を許せない日々が続いている。ご利用者様にとっては、高熱との戦いで、体の節々が痛いのに声を上げ切らない利用者様もいるように毎日の換気の徹底と手洗いの励行、マスクの着用は当たり前だが、それが疎かになっていないか気を引き締めていきたいものです。ご家族との面会を楽しみにしている方々にとって、感染症が流行したらご家族との接点が切れるので、職員も気をもみながら毎日の業務に専念しているとこである。

令和七年のスタートに当たり今年こそは、世界中が平和になることを願ってやまない。まして、自国の災害多発には人間の想像をはるか超えて、頻繁に起こっている災害には、心が痛みます。昨年は元旦早々に能登半島での地震等で何人も尊い命が一瞬にして失われました。いまだに復興のめどはついていないようですが、その地方に住んでおられる方々に心を寄せて、行きたいものです。また、昨年はテレビ、映画等で活躍していた方々が亡くなられました。世のはかなさも、改めて思い知らされた一年でした。生活していく上では、物価の高騰はどこまで続くのか計り知れないものがあります。その反面、世界で活躍した方々も多くありました。今回は広島、長崎の被爆者たちに贈られたノーベル平和賞で新聞の一面に大きく記載されました。核兵器を持ち込まないという訴えで様々の人々の長年の苦勞が報われたのかもしれませんが。そこに至るまでは、悲惨な戦いが立ちほだかり、遠い道のり戦後79年の道のりでした。然しこの道のりはこれで終わりではなく、生涯続くものです。しかし一旦節目を迎えた今、まだまだこれから続く道のりを一步一步き続けるために希望という旗を掲げて。

全世界のカトリック教会でも今年には聖年の年として「希望」という標語が掲げられています。いろんな事柄にいい希望を持って今年一年も穏やかに過ごせることを願ってやみません。

令和七年も利用者様をはじめ、ご家族の皆様、地域の皆様、そして関わる全ての皆様の健康を願って神様のみてのうちに過ごせますように。どうぞ今年もよろしくお願い申し上げます。

